

# 慢性腎不全児の心理学的問題点について

## 小児腎疾患の長期管理における運動・食事・社会心理に関する研究 長期管理に由来する社会心理問題について

井原成男， 白井信男

小児慢性腎不全患児8例について心理テストを行った。YG性格テストではA型が7/8と大部分であったが、D型は認められなかった。PFスタディでは内罰的、無罰的が5/8を占め、SCTでは病気、治療についての記載が多く認められた。HTPでは自然で健康的な絵が多く、基本的な精神面の健康さが示唆された。以上より、慢性腎不全では疾病およびその医療管理が患児らに及ぼす影響は大きく、発病初期よりの心理的アプローチの重要性が示唆された。

### 慢性腎不全，心理テスト

#### 【研究方法】

慈恵医大小児科へ通院中の慢性腎不全児8例（年齢12～22才，男児7例，女児1例）を対象にした。3例（症例1～3）は保存療法中であったが、いずれも乳児期より長期の医療管理を受けていた。また、3名とも著明な低身長をともっており、調査時、食事、運動制限および薬物投与を受けていた。他の5例（症例4～8）は末期慢性腎不全のために透析療法を受けていた。

以上の患児に対して心理テスト（YG性格テスト，PFスタディ，SCT，HPT）を行ない検討した。

#### 【結果】

1. YG性格検査では平均的といわれるA型のバリエーションに8人中7人が入っていた。AB型を示した患児（症例1）は日常会話でも幼い感じが強く、問題があるように思われた。また、ノイローゼの人に多いといわれているE型を示した患児（症例3）は心理学的なアプローチを開始したばかりであり、心理学的治療が良い影響を与えるか今後のフォローが必要と考えられた。今回の対象患児のYG性格検査の結果は全例とも平均的ではあったが、D型（指導的）は少なく、病気による休みの多さ、運

動制限などがその原因になっている事も考えられる。YG性格検査はこのような疾病に対する医療管理が精神衛生に悪影響を及ぼしている患児のスクリーニングに有用と思われた。

2. PFスタディにより社会的な傾向を見ると、内罰的（自分を責める）タイプと無罰的（誰も悪くはなかったことにしてしまう）タイプが8人中5人を占めていた。社会的な場面での適応は8人中6人が平均以上で大変良い事と考えあわせると、大変無理をして努力して社会に適応している例が多いように思われた。外罰的な傾向の人は逆に適応が悪く、このことから病児たちは自制によってかなり無理して社会に適応していると思われた。今後、これらの問題については具体的な面接によって確かめて行く必要があると思われた。

3. 文章完成法（SCT）からは例外なく、1) 健康（病気）のことを大変気にしていること、2) 健康な人、特に同胞と自分を比較してみがちなる事、3) 薬について苦痛に思っていること、特に、親に服薬などについてガミガミ云われることで、反抗期と重なった場合には問題がこじれがちであることなどが問題点として考えられた。こうした側面についてはカウンセリングが最も有効と思われた。また、運動が苦手であっ

東京慈恵会医科大学小児科

Naruo Ihara, Nobuo Usui

The University School of Medicine

たり、運動したいのに制限されることへの不満がとても多く、こうした傾向については初期から運動以外のものへの興味を見つけてゆく指導が可能かもしれない。また、治療によって学校を休む事が多くなり、体力的なこともあって、成績が良くないことを悩んでいる傾向が認められる。これにたいして病児の病気について指導を受けた家庭教師等も必要になってくるように思われた。

4. HTPは共通して外でのびのび遊んだり、くつろいだり、自分の好きなことをしている絵や、のんびりした自然の絵をかいたものが多く、病児たちの持つ基本的な精神面の健康さと彼らの制限のない自由な生活へのあこがれをいきいきと示しているように思われた。

【考案】

慢性腎疾患患児を管理するうえで疾病に対する治療はもとより、長期間の医療管理が患児の精神面に与える影響には大きいものがある。特に、慢性腎不全は治療が長期間におよび、治療上、食事、運動制限や透析療法等による患児の生活制限が多岐にわたることから最も重要な疾患と考えられる。

これまでも慢性腎疾患やほかの慢性疾患患児の精神衛生面での検討は多く報告され、疾病あるいは長期の医療管理が患児の精神衛生に及ぼす影響の重要性が指摘されている。最近、養護学校等の教育施設を併設した病院が増加し、患児らの治療教育的環境が整備されてきたことは患児らの精神衛生を考えるうえで有意義な事と思われる。

今回の検討では慢性腎不全患児では基本的には精神面では健康であるが、疾病およびその治療が患児らの精神衛生に悪影響を及ぼす余地があることを示していた。即ち、YG性格検査では積極性に乏しい事、PFスタディでは無理して社会に適応していること、文章完成法では患児らの疾病あるいは医療管理が患児らに及ぼす影響の大きさが示されているように思われた。

今後は、疾病の種類、程度、あるいは透析療法、腎移植などの治療法による差異についても検討し、家族をはじめ、患児を囲む医療、教育スタッフによる予防的な心理学的アプローチの方法についても検討して行く必要があると思われる。

表1 慢性腎不全8症例における心理テストのまとめ

---

1	YG性格テスト :	A=7/8, E=1/8, D型はいない。
2	PFスタディ :	(内)+(無)=5/8, 防=5/8 GCR 平均+やや低い=7/8, 高い=1/8
3	SCT :	病気のこと、クスリのことが多い。 そのほか、背(身長)の事、将来のこと、成績のこと
4	HTP :	外で伸び伸び好きなことをしたり、のんびりした風景が多い。

---

表2 慢性腎不全児における各種の心理テストの結果

症例	年齢	性別	診断・治療・通院期間	YG	Pフスタディ	SCT	HTP
1 〇村〇二	1 1才	男児	発育不全腎 (0才時) 保存療法	AB	外罰的・防衛的 GCR やや低い	(外)-防	外で伸び伸び 好きな電車
2 〇山〇康	1 2才	男児	発育不全腎 (0才時) 保存療法	A	内罰的・防衛的 GCR 平均	(内)-防	外は寒い風邪 落葉を集めている
3 〇田 博	1 2才	男児	発育不全腎 (0才時) 保存療法	E	やや無罰的 GCR 平均	(無)	友人と外で大きな栗取 り
4 〇井〇仁	1 2才	男児	先天性水腎症 (6才時) CAPD (1年)	A	外罰やや少 GCR 平均	(内)	楽しい外でのびのび・ り
5 〇水〇代	1 3才	女児	溶血性尿毒症候群 (0才時) 血液透析 (2年)	AC	無罰的 GCR やや低い	(無)-防	のんびりした風景
6 〇岡〇一	1 5才	男児	慢性腎炎 (1 2才時) CAPD (2年)	A	内罰的 GCR やや高い	(内)	外でのんびり 伸びやかに
7 〇田〇樹	1 7才	男児	ネフローゼ (6才時) CAPD (1年)	A	やや外罰的・防衛的 GCR 平均	(外)-防	外で好きな野球
8 〇藤〇生	2 2才	男児	逆流性腎症 (1 0才時) 血液透析 (3年)	AC	やや外罰的・防衛的 GCR やや低い	(外)-防	外でのんびり 伸びやかに

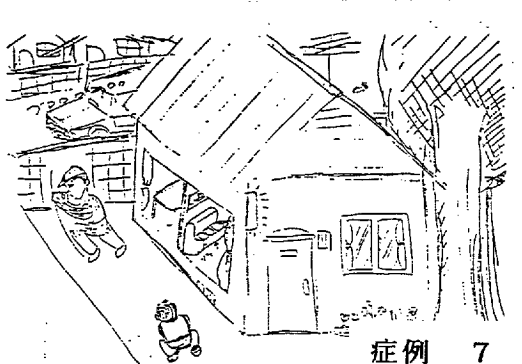
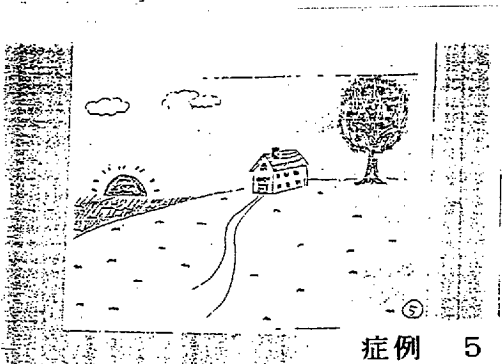
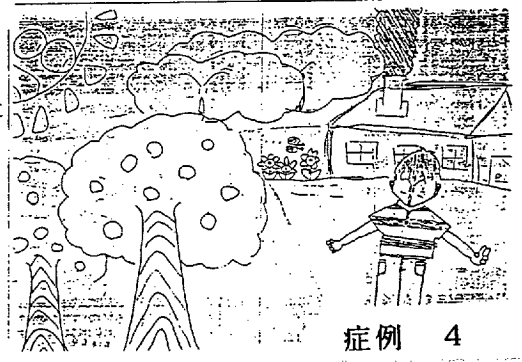
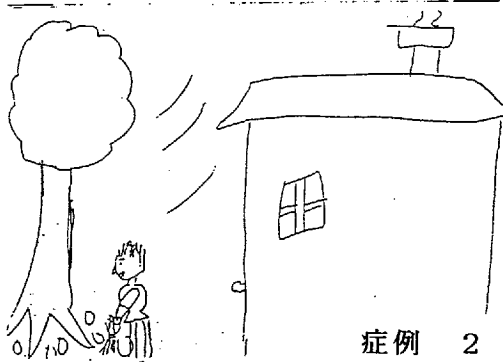
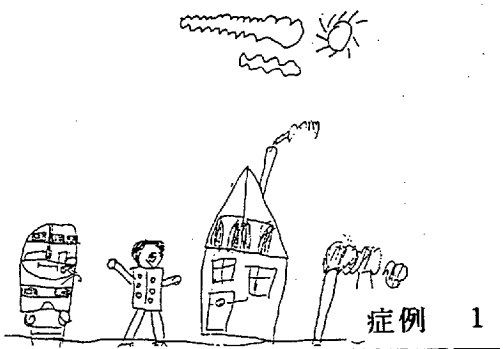


図1 HTP 絵画テスト



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



小児慢性腎不全患児 8 例について心理テストを行った。YG 性格テストでは A 型が 7/8 と大部分であったが、D 型は認められなかった。PF スタディでは内罰的、無罰的が 5/8 を占め、SCT では病気、治療についての記載が多く認められた。HTP では自然で健康的な絵が多く、基本的な精神面の健康さが示唆された。以上より、慢性腎不全では疾病およびその医療管理が患児らに及ぼす影響は大きく、発病初期よりの心理的アプローチの重要性が示唆された。